

会 議 要 旨

会議の名称	第2回川越市駅周辺まちづくり懇談会
開催日時	令和7年11月26日（水） 14時00分 開会 / 16時00分 閉会
開催場所	川越市役所本庁舎7A会議室
出席者（委員）氏名	<p>座 長 大澤 昭彦 委 員 小嶋 文</p> <p>委 員 三友 奈々 委 員 湊 一成</p> <p>委 員 小武海 篤史 委 員 京尾 淳一</p> <p>委 員 栗原 良則 ※代理出席</p> <p>委 員 東 徹 委 員 野村 孝</p> <p>委 員 小澤 正興 委 員 齋川 清美</p> <p>委 員 山下 正雄 委 員 宮澤 和彦</p> <p>委 員 須田 徹 ※代理出席</p> <p>委 員 寸田 英利 ※代理出席</p>
欠席者	なし
事務局職員 職 氏 名	<p>都市基盤整備担当参事</p> <p>都市計画課長ほか都市計画課職員5名</p> <p>都市整備課長ほか都市整備課職員3名</p>
会 議 次 第	<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>（1）川越市駅周辺まちづくりビジョンについて</p> <p>（2）委員プレゼン【三友委員】</p> <p>（3）委員プレゼン【東武鉄道㈱】</p> <p>（4）まちづくりの方向性について</p> <p>3 その他</p> <p>4 閉会</p>

議 事 の 経 過
議題・発言内容・決定事項
<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 川越市駅周辺まちづくりビジョンについて 事務局より資料をもとに説明。</p> <p>(2) 委員プレゼン【三友委員】</p> <p>(3) 委員プレゼン【東武鉄道（株）】</p> <p>(4) まちづくりの方向性について 事務局より資料をもとに説明。</p> <p><意見等></p> <p>(委員) 本川越駅と川越市駅間の道路は歩行者交通が多く、車が通行できないなどの支障が出ているため、早急な対応策を講じてほしい。</p> <p>(委員) 本懇談会は、個別箇所の改善事項を議論する場ではない。本川越駅と川越市駅間の道路が歩きにくいという意見は、事務局が説明したまちづくりの視点の「Walkable（安全で居心地がよく、歩きたくなるまちをつくる）」に該当する。そのため、具体的な改善内容をまち全体の方向性に置き換えたときに、どの要素が重要となるのか検討すべきである。</p> <p>(委員) (事務局資料の) 都心核・都市的活動核の概念図において、川越市駅の役割として「住宅地・商業地」と記載があるが、「行政拠点」ができれば、駅周辺の日中滞留人口が増加すると考えられる。現行の市役所周辺は観光施設として再整備するなど、旧市街地を含めたより広い視野で議論した方がよい。</p> <p>(委員) 前回の懇談会でも（川越市駅周辺には）行政機能の役割が必要ではないかとの意見があった。東武鉄道から説明のあった中間拠点都市の拠点は、川越駅・本川越駅・川越市駅であると考えられるため、3駅の強みや弱みを踏まえた役</p>

割分担を整理していくことが重要である。

(委員)

事務局からまちづくりの視点の例示として8つ示されているが、並列の視点に濃淡を付けることで、まちの個性が表れるのではないか。

(委員)

駅前の駐車場や西側の車両基地でなにか新しい取り組みができないか。そこには、子育て施設、図書館、支援センター、病院など、収益性を確保しつつ空間整備を検討できる可能性がある。

(委員)

第1回懇談会での委員意見（川越市駅周辺を埼玉県を代表する一大商業地とすべき）を聞き、非常にわくわくした。実現可能性はともかく、この「わくわく感」は大切であり、若者や来街者が魅力を感じる要素が必要である。

(委員)

川越市駅周辺は「安全で東西に交流があり、自然があり、人が自然と集い憩う場所」といった空間になってほしい。現状では目的なしに過ごせる場所がなく、滞留人口を見ても通勤通学利用が中心であることがうかがえる。

また、大震災時にはさいたま市とともに首都機能をバックアップできる行政集積地としたい。その方が市民も安心し、川越市の役割を全国に示せる。国や県の出先機関を誘致できるような拠点としたい。

(委員)

「目的がなくても過ごせる」という視点は、まちづくりにおいて重要である。そのような視点から議論を広げていくことが望ましい。

(委員)

前回懇談会の内容を自治会内に報告したところ、(川越市駅周辺は)「子育てが非常にしにくい」との意見があった。その理由として、緑や公園が少なく、駅を降りるとすぐにタクシー乗り場となり、子どもを連れて安心して過ごせる場所がないという指摘である。そのため、「ゆとりある状況の中で広場を整備すること」が重要である。また、防災面からも駅前の空間を広く確保できないかとの意見があった。

(委員)

駅周辺に緑やオープンスペースが少ないことが、子育てのしにくさや防災面の課題につながっている。安心して歩ける居場所としてオープンスペース

を軸にすることで、多様なまちづくりの視点につながると考えられる。

(委員)

駅周辺開発において、収益性の確保が必須である一方で、行政や地域と連携し、開発インセンティブ等を活用した公開空地（オープンスペース）の整備など、公益と収益を両立する形での検討もしていく必要がある。

(委員)

(事務局案に) 記載されているようなまちづくりの視点は、まちづくりの検討過程で比較的多く挙げられるものであると認識している。今回提示されている視点については、市が示していたフィルターを通し、施策に落とし込める形に整理できるとよいと考えている。

(委員)

川越市駅周辺のまちづくりは、東武鉄道が所有する土地の活用が非常に重要だと考えている。今後の検討において、なにを前提とすべきか。コミュニティや緑といった議論は既に出尽くされており、東武鉄道としての前提条件を明確化しなければ計画性を欠き、まちづくりビジョンを作成してもそれで終わりになってしまう懸念がある。

(委員)

暫定利用などの実験的な取り組みを行うこともできるのではないか。目の前の課題解決のための検討が将来の基盤整備につながる可能性もあるため、検討いただけるとよい。

(委員)

情報を整理することで、(事務局が考えるまちづくりの) 視点が8つ以上に増える可能性もある。

3 その他

第3回懇談会は年度内年明け以降の開催を予定している。

4 閉会

以上